

1. 教育の責任

栄養士課程では「栄養指導論Ⅰ（2年前期）」、栄養教諭二種に関する科目では「学校栄養教育論（1年後期）」、「栄養教育実習（2年通年）」、「教職実践演習〔栄養教諭〕（2年後期）」を担当している。特に教職科目では、栄養教諭としての実践的指導力の育成と、充実した実習を行うための準備、実習を踏まえた教職での学びの総まとめについて、一連の学習として学生に意識づけられるよう指導している。また、「スタディスキルズⅡ（1年後期）」、「特別研究Ⅱ（2年通年）」を担当し、研究計画の立て方、研究の進め方、研究活動の助言、まとめ方や発表の仕方を指導している。また、今年度開講科目の「食育実践演習Ⅰ（1年後期）」を実施した。

2年生のクラスアドバイザーとしては、時期に応じたガイダンス内容を計画し、個々の学生の進路実現に向けたアドバイスを行っている。学生会館運営委員会としては、会館生の自律性を育成し、快適な寮生活ができる環境を整え、学生をサポートする体制を整備することに努めている。

2. 教育の理念と目的

食物栄養学科の教育目標に基づいた「円満な人格や高邁な精神を備えた豊かな人間性の育成」である。栄養教諭課程では、栄養士・教員としての専門的知識を食育指導に生かせる力を身につけること、学校における栄養教諭としての立場を理解し、児童生徒・教職員・保護者等とのコミュニケーション力を身につけることが必要である。担当している教職科目では、育てる人物像〔栄養教諭二種免許〕に示される「学校での食育を充実させ、学校における食育を家庭や地域にも発信できる」ことと、カリキュラムポリシーに示される「専門的な知識や技術だけではなく、職業人としての態度や倫理観の育成も重視した教育」に重点をおいて指導している。

3. 教育の方法

「学校栄養教育論」では、学校における栄養教諭の役割、児童生徒への食育指導の目的や指導方法について、できるだけ事例を交えて具体的に理解できるように指導している。「栄養教育実習」では、事前指導として学習指導案や教材作成など研究授業の準備、教員や社会人としての心構え等について実施している。特に、研究授業の準備を行うだけでなく、社会人として他の教職員とコミュニケーションを取ることについて、教員として児童生徒と関わることについて重点を置いて指導している。事前指導では実習に向けて全員が到達目標を達成する必要があることから、一斉指導で十分でない場合は個別に指導を行っている。実習中の研究授業に関する学生へのフォローや事後指導では、学生の実情に応じた個別の指導が必要であるが、その際は実習校からの学生への要望や評価を踏まえて指導を行っている。「教職実践演習（栄養教諭）」は、2年間の教職課程の学びの総まとめとして位置づけられていることから、学内と実習での学びを統合し、具体的な現場での実践のイメージを持てるような演習課題を行っている。

教職履修者は2年間を通じて「教職課程の自己評価（履修カルテ）」を記録し、自分の学習成果を振り返りながら自己課題を明確にすることができるようにしている。自己評価の方法は教職と栄養教諭に必要な資質能力について、項目ごとに判定基準を参照しながら4～1の評点を選択する方法とし、項目のグループごとにコメントを記述することとした。学生が記録した自己評価に対しては、コメントを記入してフィードバックを行っている。また、学生が自己評価を行った際に自分が到達できていない部分にばかり注目し、ネガティブなイメージを持つことがないように指導している。

4. 評価と成果

教職課程については、今年度（49期生）の栄養教諭履修者は2名のみであった。少人数ではあるが教職履修に目的意識をもって学習や栄養教育実習に真摯に取り組むことができていた。実習校による栄養教育実習の評価、教職科目での課題の内容や成績評価、教職課程の自己評価の記録、実習の事前・事後指導から判断すると、到達目標はおおむね達成できていた。また、実習校の評価では、授業の指導技術は経験不足の面もあり十分ではないものの、教員としての資質や社会人としての振る舞いについては高い評価をいただいた。

学生自身の自己評価をみると、各自が自分の到達度を客観的に捉えることができていた。評価項目のうち「保護者や地域との関わり」については学習が不十分であると感じていた。栄養教育実習でも経験する機会がほとんどない部分でもあり、2年間の教職課程の中でどのように扱っていくかが課題である。

令和元年度は50期生の「食育実践演習Ⅰ」を実施し、13名の学生が履修した。保育施設での見学や指導内容の検討を実施することができた。次年度の「食育実践演習Ⅱ」では保育施設での食育指導の実践を目指しており、学生自身に実践力が身についたと感じられるよう実施していきたい。

5. 今後の目標

【短期目標】

- ・教職履修者が2年間を通じた学びのイメージをもてるよう、教職ガイダンスを適時実施している。令和元年度は、1・2年生合同での栄養教育実習報告会などを行ってきたが、結果として1年生の履修取りやめが多くなってしまった。ガイダンス内容は毎回見直しているものの、実施方法や内容の改善がさらに必要である。次年度は実施時期、内容等を含めて全体的に見直しを図りたい。

【中期目標】

- ・現在は学生に対して食物栄養学科の育てる教師像を具体的に示しておらず、教員がどのような職業か理解できていない学生がいる。栄養教諭の職務内容や教職課程での学びについては、これまでも教職ガイダンスを通じて伝えてきたが、目標をもって履修するためには学生が理解できる具体的なイメージが必要であると思われる。今後は学生に示す教師像の具体的なイメージ、学生に伝える時期や方法について検討していく。

6. その他

教員養成課程を担当する教員として、学生が学習成果を得られるように研鑽していく。また、学生指導については、一人ひとりの学生の資質能力に応じた指導が行えるよう研鑽する。昨年度から取り組んでいる共同研究については、研究計画に沿って実施していく。

7. 根拠資料

- 1) 「学校栄養教育論」「栄養教育実習」「教職実践演習（栄養教諭）」シラバス
- 2) 栄養教育実習のてびき
- 3) 栄養教育実習ノート、実習での研究授業（巡回時に参観）、実習校による実習の評価
- 3) 教職履修の自己評価【栄養教諭】（履修カルテ）